

イチ番にゴウ格を

羽後町「こまち野」地元中3生に贈る



小野社長（右）からイチゴを受け取る生徒

羽後町三輪地区でイチゴ栽培を手がける「こまち野」（小野雅敏社長）は、高校受験を控えた羽後中学校の3年生99人に、合格を祈願したイチゴを1人1パックずつ贈った。

生徒たちが「イチ」番に「ゴウ」格できるよう応援の気持ちを込め、2014年から

毎年贈っている。

同町字南野の栽培ハウスで15日に贈呈式が開かれ、代表生徒6人が参加。合格祈願の神事後、小野社長（69）からイチゴを受け取った。原田大雅さんは「イチゴを食べて免疫力を上げ、最後の追い込みを頑張りたい」と話した。

小野社長は「ビタミンCが豊富なイチゴを食べて万全な体調で受験に向かってもらいたい」と激励した。（舘岡朋美）

（令和6年2月23日（金）秋田魁新聞より一部抜粋）